

平成 26 年 1 月 15 日

## 草ヶ部 法追(ホウエ) 貝層の現状報告

中西厚 丸谷憲二

### 1 はじめに

吉井川右岸の貝塚の現状を調査していて、草ヶ部の法追(ホウエ)貝層を知りました。平成 25 年 12 月 20 日に草ヶ部の法追(ホウエ)貝層を中西厚氏に案内していただきました。

### 2 草ヶ部 法追(ホウエ) 貝層の現状

中西厚氏の著書「ふるさと再発見 草ヶ部の物語」に「草ヶ部 法追谷の南面の竹藪の中に、かつて葡萄を運搬するテーラーの道を広げた時に切り取ったと思われる斜面に直径 2cm 位の巻貝の白い殻が散乱していました。この巻貝が貝塚の貝だとすれば、さらに古代の貝塚遺跡かもしれません。」と記録されています。上道変電所の近くです。

法追貝層は 60 年前にブドウ畑の開墾中に発見され、地元では貝塚と伝承されています。沼の貝塚が再調査されていた頃と思われます。小学生が小学校に持って行ったが、「貝塚とは認めてもらえなかった」という証言が残っています。法追貝層の標高は沼貝塚より 5～10m 高く 10～15m です。



法追貝塚⇒表示

### 3 草ヶ部 法追(ホウエ) 貝層・調査報告

竹藪の中を 50m 程入った斜面に貝層があります。同一種類の巻貝が層になっています。貝塚では無くて「水面が下がり巻貝が層になって残った」可能性があります。貝層です。見つかったのは川の貝です。50 年前に小学生が小学校に持って行ったが、貝塚とは認めてもらえなかった。その女性石原さんが 50 年ぶりに昔を思い出して案内してくれました。「専門の先生に現地を見てもらいたい。貝塚なのか。水面低下は何時の時代か。巻貝の種類は何か。教えてほしい」と頼まれました。岡山県農林水産総合センター水産研究所を平成 25 年 12 月 25 日に訪問し、村山史康先生(開発利用室 技師)に鑑定を依頼しました。「古い貝殻を見るのは初めて」とのことでした。3 冊の貝類辞典にて、海の貝から調査に入り、最終的に川の貝であるマルタニシとの鑑定でした。マルタニシはたにし科です。食用のたにしです。マルタニシは殻の縁が角ばっていないのが特長です。他にマイマイの仲間も見つかりました。川の貝層の可能性あります。





たにし科マルタニシ

#### 4 まとめ

- ① 法追貝層から川の貝であるマルタニシが発見されました。食用のたにしです。畑山智史氏の「犬島貝塚から出土した動物の生息域」にマルタニシが記録されています。マルタニシは広島県尾道市の大田貝塚出土貝類一覧と備後地方縄文貝塚出土貝類一覧

表に記録されています。松永湾の東湾に位置する馬取西貝塚でも記録されています。

- ② マルタニシは甲野勇氏(大山史前学研究所)の、1928年6月『史前学研究会小報・第二号』『埼玉県柏崎村真福寺貝塚調査報告』に「縄文時代後期末・晩期」と記録されています。晩期とは約3,300～2,800年前です。1950～1954年に発掘された滋賀県大津市寺辺町石山貝塚と同様の日本では例の少ない内陸部の淡水区域貝塚と推定されます。

表1 岩槻付近の貝塚出土貝種名一覧表  
(甲野勇「真福寺貝塚調査報告」第4表を改訂)

| 種名       | 地名     | 後期末・晩期 | 前期諸磯式 | 前期黒浜式 | 前期諸磯式 | 中期勝坂式 | 前期黒浜式 | 前期関山式 |
|----------|--------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|          | 真福寺小貝戸 |        |       | 深作    | 柏崎    | 浮谷    | 黒谷    | 木曾良   |
| ニッポンシジミ  |        | ◎      | ◎     |       |       |       |       |       |
| ヤマトシジミ   |        | ◎      | ◎     |       |       | ◎     |       |       |
| ハマグリ     |        | ◎      | ○     | ○     | ◎     | ◎     | ◎     | ◎     |
| オオノガイ    |        | ◎      |       |       | ○     | ○     | ○     | ◎     |
| ハイガイ     |        | ○      | ○     | ◎     | ◎     | ◎     | ◎     | ◎     |
| サルボウ     |        |        |       | ○     |       | ○     | ◎     | ○     |
| アサリ      |        |        | ○     |       | ○     | ◎     | ◎     | ○     |
| シオフキ     |        |        |       | ○     | ○     | ◎     | ◎     | ◎     |
| オキシジミ    |        |        | ○     | ○     | ○     |       | ◎     | ◎     |
| マガキ      |        |        | ◎     | ◎     | ◎     | ◎     | ◎     | ◎     |
| イタボガキ    |        |        |       |       |       |       | ○     |       |
| アカニシ     |        |        |       | ○     | ○     | ○     | ◎     | ◎     |
| オオタニシ    |        | ◎      |       |       |       |       |       |       |
| マルタニシ    |        | ◎      |       |       |       |       |       |       |
| カワニナ     |        | ○      |       |       |       |       |       |       |
| チリメンカワニナ |        | ○      |       |       |       |       |       |       |

『日本における貝塚研究の歴史 1877年～1970年代』 江坂輝弥 収録

- ③ マルタニシは縄文時代から現在迄も行き続けている貝です。貝塚の年代が重要です。平成26年1月15日に小野伸氏に採取したマルタニシの現物を見ていただきました。「このマルタニシは新しい、縄文時代では無い。年代測定は同時に発見している土器の年代を専門家に鑑定してもらうように」との教示を受けました。
- ④ 長谷川一英先生(岡山市埋蔵文化財センター所長)の所見は、「応仁の乱(1467年)～江戸時代」でした。「貝塚では無くて貝層と考える。マルタニシに食べた後が残っていればゴミ捨て場である。現在は竹藪であっても中世から近世の住居跡が近くにあるかもしれない。」同時に研究手法として「落ちているものを拾うのは良い。しかし、発掘は法に抵触する場合がある。」「関係機関に発見を報告するように」との教示を受けました。
- ⑤ 法迫貝層のマルタニシは内陸部の淡水区域の貝です。竹原貝塚でのマガキの発見により、吉井川の中州と瀬戸内海は何処で分離されるのかとの設問に対する解答として、法迫貝層の重要性が確認されました。①～⑤はより海水の多い貝塚を①としました。

| 吉井川の中州と瀬戸内海は何処で分離されるのか |          |                    |           |
|------------------------|----------|--------------------|-----------|
| 貝塚名称                   | 発見した貝の名称 | 淡水・汽水・海水に生息する貝類の分類 | 発見した貝塚の年代 |
| 法迫貝層                   | マルタニシ    | 淡水⑤                | 戦国時代～江戸時代 |